

第29回

うつのみやこども賞だより

平成24年度 第7回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『世界一かわいげのない孫だけど…』

荒井寛子／作 勝田文／絵 (ポプラ社)

～読んだ本の感想より～



- おばあちゃん(まりのさん)と美波との出き事がすごく笑ってしまったり、「秘密のババ園」の落語などでとても笑ってしまったり、美波と友だちがなか良くなって読んで心があたたまりでも笑ってしまうとてもおもしろい作品でした。
- だんだんとみなみの気持ちが変わっていき、さいごにはゆうじょうがめばえるところにかんどうしました。
- 美波の心の変化がおもしろかった。
- 転校生の気持ちが少しだけわかった。
- おばあさんとミナミの関係がおもしろかった。いなかのよさがよくわかる。
- おばあちゃんと美波のやりとりみたいのがおもしろかった。
- 美波は全てがきにいていなかったのに、しょうことルミと出会うと演劇部に入ってから少しずつ変わり始めてきずなができてかんどうしました。まりのさんと少しずつ仲よくなってよかった。
- ときおり、なぞかけが入っていて、笑いながら、読めました。

『お父さん、牛になる』 晴居彗星／作 (福音館書店)

- お父さんが牛になってしまったおかげでお父さんの大切さがわかり、家族のきずなが分かる。すごくかんどう的で物語でした。話のあとお父さんがもどいたらいいと思いました。
- なんでお父さんが牛になったのかがふしぎで気になりました。人間にもどらなかったところが、残念でした。

『ゆうれい回転ずし本日オープン!』

佐川芳枝／作 (講談社)

- ゆうれいがおすしやさんをやっているなんてびっくりしました。
- とてもおもしろくて少しだけ感動する本でした。わたしも一平さんのようなすしやが、近くにあったらいいなあ～と思いました。
- ゆうれいが回転ずしをはじめたのと、うしおのいじめ問題を解決したのが印象に残ったからです。
- 潮は友一など家族ごとでケンカになってしまったけれど、一平さんのすしやは、おいしいだけでなく、友一のお母さんに、ごかいもとけて、最高のすしやだと思いました。
- ゆうれい回転寿司をやっているメンバーがユニークで読んでいてとてもおもしろい本でした。

『空へのぼる』 八束澄子／著 (講談社)

- 感動しました。赤ちゃんが産まれるのはすごいんだなあと思いました。梢という名前がかわいいなあと思いました。
- 主人公が自分とにいて、すごくきょう感できたし、つらい過去があったのに、めげずに元気に生きる乙葉と桐子を見て、すごくかっこいいと思いました。「命」を通しての家族のあたたかさが伝わってきてすごく心が温まる物語で感動しました。
- 木の生命、人の生命、色んな生命がえがかれていて感動的でした。乙葉、桐子、それぞれ複雑な思いをいだいているけれど、木や人によっていやされていくのがステキでした。
- 桐子や軍二の木への愛情が感じられて、とても感動しました。それぞれ自分の心の中に複雑な思いをもっているけれど支えたり支えられたりしながら進んでいく姿に感動しました。